



『BEYOND THE LIMIT 製造限界を超える』

このたびSJAC会員に入会させて頂く運びとなり、ご支援賜りました皆様には改めてお礼申し上げます。浅学菲才の身でございますが業界発展の為、尽力したいと考えております。

当社は1962年に石川県金沢市の地で砂型鋳造メーカーとして創業しました。1990年代には当時はまだ珍しい『鋳造から機械加工まで一貫した体制』を構築し業績向上を目指してまいりました。いまでも続くチャレンジングな取り組みと思想はその当時から受け継がれてきたものと振り返ります。

航空宇宙産業に関わる最初のきっかけは2009年ファンボローのエアショー視察でした。視察にあたり、当時はこれといった志も薄く当社自体のビジネスの中心も自動車産業でありましたし、航空機に砂型鋳物？といった先入観があるなか、慣れない海外渡航であったことを思い出します。ところが視察を進めると砂型鋳造品の多くの展示とその高度で一見無駄にも見える複雑な構造に驚き、ショックを受けたことを思い出します。単純な考えから“うちでもやってみよう！”とその後の苦労も想像することなく取り組みましたが、さまざまな参入障壁の高さや独特の業界作法の違いに悩み苦しみながら14年後の今、なんとか土俵にのれたことは幸いです。

さて近年日本の製造業を取り巻く環境は、まさに激変してまいりました。戦後の高度経済成長の中で日本の製造業が世界で高く評価されるようにまでなった時代から、新興国への安価

な生産移管、これらの国への技術の流失、少子高齢化による製造業の人手不足に加えて新型コロナウイルスやウクライナ危機による経済の混乱など当社の立ち位置も激変にさらされています。一方さまざまな技術の進展で、デジタルツインや工業用3Dプリンタといった先端技術が実際の物となってまいりました。当社のキャッチコピーでもある『BEYOND THE LIMIT 製造限界を超える』を具現化するにあたり、それらの技術は大変重要であり、とくに3Dプリンタを用いて最適化される素形材は過去の製造限界を超えると確信しています。この画期的な技術は航空宇宙業界に革命をもたらす技術の最前線と考えられており、当社は安定した雇用と高品質な素形材の安定した供給源になることを目指したいと思っております。

直近グローバルな引き合いは増えているところですが、同時に鋳造素形材の国内回帰についても努力を重ね、日本の航空宇宙産業に貢献する所存です。まだまだ駆け出し者ではございますが、何卒皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。